



SAKAI WO KOETE

境を越えて

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

“地域生活の視点で学ぶ重度障がい者の暮らし”

カリキュラム化プロジェクト第2報

—3校でのモデルカリキュラム実施から見えた成果と課題—

NPO法人境を越えて 本間里美

共同演者：岡部宏生, 千葉早耶香, 長田直也
川村由里, 向山夏奈, 櫻井こずえ

日本難病医療ネットワーク学会

COI開示

筆頭発表者名 本間里美

演題発表に関連し、

開示すべきCOI関係にある企業などありません

“地域生活の視点で学ぶ重度障がい者の暮らし”カリキュラム化プロジェクト第1報 -実施経過分析からの成果と課題-の要約

本プロジェクトは、2020年度より3か年計画で実施し今年度（2022年度）で3年目を迎えた。一昨年の報告では、2020年度～2021年度までの実施経過を1校への開催実績を踏まえ、主なプロジェクトの全容についてご紹介。

（日本難病医療ネットワーク学会機関誌9巻2号に掲載予定）

本報告の目的

“地域生活の視点で学ぶ重度身体障がい者の暮らし”カリキュラム化プロジェクト、2021年度開催実績（3校）より成果と課題を明確にし、本カリキュラム波及に向けた一助とすること。

介護と医療の連携構築・在宅医療・福祉の充実に貢献できる人材育成

“地域包括ケアシステム構築”実現（2025年目標）に向けた急務の課題

参考）厚生労働省 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/

- ✓ 連携構築は、互いの専門性を理解し相互に結合すること
- ✓ 支える視点には“その人がどう生きたいか？”を中心におく

参考）成木弘子:地域包括ケアシステムの構築における“連携”の課題と“統合”促進の方策,保健医療科学 2016 Vol.65 No.1 p.47-55

参考）Valentijn PP, Schepman SM, Opheij W, Bruijnzeels MA. Understanding integrated care: a comprehensive conceptual framework based on the integrative functions of primary care. Int J Integr Care. 2013; 13:8. <http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC3653278/> (accessed 2016-1-5)

【現状】

- ・地域生活の主軸となる介護（重度訪問介護）の専門性が他職種に正しく理解されていない
- ・介護と医療の連携構築は、障がいの重症度が増すごとに稀薄になってしまう傾向にある
- ・当事者は、自分らしく地域で暮らし続けることが難しくなっている

【本プロジェクトの目的】

在宅医療・福祉の充実に貢献できる人材の土台形成

【本プロジェクトの目標】

“地域生活の視点で学ぶ重度身体障がい者の暮らし”カリキュラムが

保健・医療・福祉系に導入されること



地域で暮らす当事者の生活を主軸に多職種連携の実際を学び、障がいを社会モデルで探求する内容

基本カリキュラム構成

【カリキュラム形式】 5日間の短期集中・1単位30時間を想定

【受講生の目的】

- 1.地域医療・福祉の充実に貢献できる人材の姿勢を知る
- 2.地域で暮らすこと、それを支えることを自分ごととして考えることができる

【受講生の目標】

1. 地域で暮らしている**当事者の生き方の多様性**に触れる
2. 地域で暮らしている**当事者の生活に関わる職種やその関わり方を伝えられる**
3. 多職種連携の中で、自分の専門性をどのように生かしたらよいかを主体的に考えることができる
4. 地域生活に様々な社会制度が関連していることを知る
5. 生活を支えている**介助者の役割や専門性について知る**
6. **障がい**を**社会モデルの視点**でみられるようになる

【カリキュラム内容】

【1日目】

地域で暮らすってどんなこと？

【内容】

地域で生きる、支える、暮らすを当事者支援者様々な立場で実践を交えての講義

【2日目】

介助者・医療者の視点とコミュニケーション

【内容】

医療者と介助者の支援の違いをそれぞれの立場話していく

【3日目】

見学・体験
6時間

【4日目】

見学・体験
6時間

【5日目】

障がいについて考えよう

【内容】

見学・体験談の共有からインクルーシブの考え方を学び自身の障がい観について発表する

モデルカリキュラム実施実績

A大学：帝京平成大学看護学科 1年生 19名 フレッシュセミナー単位の選択教科

【1日目】
地域で暮らすってどんなこと？
【内容】
地域で生きる、支える、暮らすを
当事者支援者様々な立場で実践を
交えての講義

【2日目】
介助者・医療者の視点とコミュニ
ケーション
【内容】
医療者と介助者の支援の違いを
それぞれの立場話していく

【3日目】
見学・体験
6時間

【4日目】
見学・体験
6時間

【5日目】
障がいについて考えよう
【内容】
見学・体験談の共有からインク
ループの考え方を学び自身の
障がい観について発表する

B専門学校：横浜リハビリテーション専門学校 理学療法学科・作業療法学科2年生 7名 特別講義

【1日目】
地域で暮らすってどんなこと？
【内容】
地域で生きる、支える、暮らすを
当事者支援者様々な立場で実践を
交えての講義

【2日目】
介助者・医療者の視点とコミュニ
ケーション
【内容】
医療者と介助者の支援の違いを
それぞれの立場話していく

【3日目】
見学・体験
6時間

開催日程の関係上お休み

【5日目】
障がいについて考えよう
【内容】
見学・体験談の共有からインク
ループの考え方を学び自身の
障がい観について発表する

C大学：東北文化学園大学 医療福祉学部（看護・PT・OT・ST）1～3年生 18名 特別講義

【1日目】
地域で暮らすってどんなこと？
【内容】
地域で生きる、支える、暮らすを
当事者支援者様々な立場で実践を
交えての講義

【2日目】
介助者・医療者の視点とコミュニ
ケーション
【内容】
医療者と介助者の支援の違いを
それぞれの立場話していく

【3日目】
Aチーム：見学・体験
Bチーム：映画鑑賞・コミュ
ニケーション体験

【4日目】
Aチーム：映画鑑賞・コミュ
ニケーション体験
Bチーム：見学・体験

【5日目】
障がいについて考えよう
【内容】
見学・体験談の共有からインク
ループの考え方を学び自身の
障がい観について発表する

- ・3校全てで講義は基本プログラム内容を実施できた。
- ・見学・体験2日間実施できたのはA大学のみであった。
- ・C大学は体験の代替えプログラムとして、地域暮らし当事者の生活を知れるドキュメンタリー映画鑑賞とディスカッションを実施した。

●身体介助

- ・着替え
- ・清拭
- ・洗髪
- ・食事
- ・入浴

●家事援助

- ・料理
- ・コーヒーを淹れる
- ・ラーメン作り
- ・買ったものを整理
- ・食事

●多職種連携

- ・リハビリ
- ・リハビリ見学
- ・医療的ケアを知る



●移動介助

- ・車いす移動
- ・移乗
- ・外出支援
 - ーバスに乗る
 - ー地下鉄に乗る
 - ー買い物に行く
 - ー区役所に行く

●医療的ケア

- ・胃ろう
- ・吸引

●コミュニケーション

- ・口文字
- ・透明文字盤

●その他

- ・パソコン代打ち
- ・インコと仲良くなる
- ・模様替え
- ・領収書整理
- ・車いす角度を変える
- ・区役所への同行
- ・活動を知る



基本的な介助見学、体験だけでなく、医療的ケアの実際や
当事者の暮らしにある個別性が高い内容も多くあった。



カリキュラム受講による障がい観の変化

【障がいとは？ Before（受講前のノート記載内容より抜粋）】

- ・ かわいそうな人
- ・ 介護が必要なこと
- ・ 病気を持つこと

【障がいとは？ After（5日目のグループ発表録画より抜粋）】

- ・ 今回の授業を受ける前に障がいのイメージを書けと言われてたとき、他と比べてできないこと、目が見えないこと、病気、かわいそうというイメージしかなかった。介助者は良い人じゃないとやっていけないと思った。**考え方を換えれば身長が低い自分だって障がいと言える。つまり、今思うのは自分達とあまり変わらない**ということ、道具、人がいることで同様に暮らせること、**介助者の方がいても自己決定で当事者の方が動いていることが分かって、障がいって大事ではなく身近なものではないか**と感じた。自分が今すぐできることはと思ったとき、道をなおすとかは国とかがやってくれなきゃできないけど、そういう物理的なものだけでなく、概念というか自分達が今日感じたことを誰かに伝え、共有していくことならすぐできるなと感じたし、そうしたいと思った。

障がいを自分ごととして捉える視点が増えている

- ・ 「障がいって何？と言われてたらマイナスのイメージしかなかった。**できなくなることという個人の問題だった。でも今は障がいって何だろう？と疑問が生まれている。**自分が思うから障がいになるのではないか、考え方や捉え方の問題だと思った。当事者の方との会話で車いすが店に入れなからラーメン屋に行けないという話があって、じゃあどうしたらラーメン食べれるかな？と考えたとき、最初はデリバリーをする、広いフードコートで食べるという考えが浮かんだが、皆で話しているうちに、そもそもの視点が違うのではないかと感じて、狭いラーメン屋が悪なのではという考えも浮かんできた。障がいって周りによっていくらでも変わっていけるものだと思った。

障がいの個人モデルから社会モデルへの意識の変化

実施後のアンケート結果

【受講学生（回答率100%）】

- 満足度（5択）：大変満足（A大学94.7%、B専門学校100%、C大学100%）
- 体験時間（5択）：短い（A大学73.7%、B専門学校83.4%、C大学83.7%）長い 全大学・専門学校0%
- 目的・目標に適切な内容の講義・体験だったか（5択）：大変適切（A大学89.5%、B専門学校100%、C大学94.4%）
- 講義への改善点（自由記載抜粋）：質問された内容が難しく答えられなかったことがあった。
考える時間がもう少し欲しかった。
もっといろいろな当事者の当事者の方の講義がみたいと思った。
- 感想（抜粋）：**障がい者とヘルパーや看護師との関係性や動きなどを実際に見ることができて勉強になった。**
当事者、介助者の方々からの生の声を聞くことが出来たのがすごくよかった。**人それぞれ意見や思いが違うから、自分で決めつけることはやめようと思った。**
実際の現場での例えや体験談が取り入れられた講義がとても良くイメージが沸いた
地域での暮らし方の捉え方が変わり今後の自分の糧になるような体験が出来ました！
こんな貴重な体験はないと思った。医療系に行く人は必修にした方が良かったと思った。

【受けいれ当事者（回答率82%）】

- 体験時間：A大学受け入れ2日間 とても短い0% やや短い33.3% **丁度良い66.7%** やや長い0 長い0
：B専門学校受け入れ1日とても短い20% やや短い20% **丁度良い60%** やや長い0 長い0
：C専門学校受け入れ1日とても短い0% やや短い33.3% **丁度良い50%** やや長い16.7 長い0
- 体験への改善点（自由記載抜粋）：**学生のフェイスシート**もあれば事前に受け入れのイメージがしやすいかも
体験例など事前にどのようなことをしている方がいるかもっと知りたかった
- 感想（抜粋）：実際の現場を体験することは学生さんにとっても良い機会になりますし、**当事者にとっても交流を持てる機会になる**ので今後も続けていってほしいです。

本報告の限界

- ・比較対象の大学が3校と少ない。
- ・全ての大学・専門学校で基本モデルカリキュラムを同様に実施できなかった。

成果

- 1.実施中、実施後に当事者、学生双方にコロナ感染者はなく安全に実施が可能であった。
- 2.アンケート、5日目の発表内容から見学・体験内容に違いはあったが、全ての開催校で当カリキュラム受講生の目的「地域医療・福祉の充実に貢献できる人材の姿勢を知る」が達成できたと考える。
- 3.受講学部、学年は異なったがどの学部、どの段階でも満足度や感想に差は見られず、本カリキュラムは保健・医療・福祉を学ぶ学生の土台形成の一助になることが示唆された。
- 4.受講生44名中16名が実際に学生介助アルバイト・ボランティアをスタートした。
- 5.見学・体験当事者の方は、次回開催時の協力の積極的な姿勢があったことは、地域で暮らす当事者の方のエンパワメントの1つに寄与したと推察される。

課題と対応

1.カリキュラム内容の課題と対応

- ・参加型の講義形式、グループワークの時間を多く取り入れ、他者の意見を聞き考えられるように導く
- ・講義と見学・体験がより繋がりがあある形で学べる内容構築

2.波及に向けた課題と対応

- ・カリキュラム全体の質の担保—**共通テキスト（教則本つき）作成**
- ・見学・体験受け入れ当事者、講師陣の確保—**重度訪問介護に深く関わる介助者、在宅医療者のネットワーク構築**
- ・実施費用の確保—**大学予算にで実施した内容をモデルとして基準額の設定**

基本カリキュラムのブラッシュアップと共通テキストの作成

9月15日(木) -1日目-

10:00~10:15	事務局	アイスブレイク グループ自己紹介
10:15~10:30	岡部 本間	はじめに
10:30~11:10	高野	地域で生きる
11:20~12:20	本間	地域で支える①
12:20~13:20	—	昼休み
13:20~14:20	本間・高野	地域で支える②
14:30~15:00	小田	【GW】地域で暮らすを考えよう
15:00~16:30	長田	地域で暮らす

全ての講義にGWを取り入れ参加型形式へ

当事者講師の増員

9月16日(金) -2日目-

10:00~11:30	千葉	医療者の視点
11:40~12:40	江口	介助者の視点
12:40~13:40	—	昼休み
13:40~14:40	江口・千葉	事例をもとに考えよう 【GW】 14:00~14:25 発表 14:25~14:40
14:50~15:00	櫻井	コミュニケーションのスタンス・文字盤・口文字
15:00~15:40	十屋 安齋	土屋さんとのコミュニケーション (遠隔)
15:50~16:30	櫻井・安齋	コミュニケーション体験
16:40~17:15	千葉	実習準備 (①フェイスシートで当事者紹介②質問を考える③心構え④ マナーチェック⑤同意書のやりとり)

事例を通じたケースワーク追加

9月17日(土) -3日目- ・ 9月18日(日) -4日目-

一日6時間	当事者宅	見学・体験
-------	------	-------

学生のフェイスシート作成追加

9月19日(祝月) -5日目-

10:00~11:00	川村	【GW1回目】実習経験談の共有
11:10~11:40	川村	学生時代の介助体験を振り返る
11:50~12:20	川村	改めて考える「障がいとは？」
12:20~13:20	—	昼休み
13:20~14:20	長田 川村	【GW2回目】障がいって何? 当たり前の見方を変えてみよう
14:30~15:00	川村(本間)	【GW3回目】グループワークで「障がいとは？」について考える
15:10~16:00	川村(本間)	グループ代表者による「障がいとは？」の発表会

ファシリテーターマニュアル作成



地域生活の視点で学ぶ
重度身体障がい者の暮らし
—「地域で暮らす」を覗いてみよう—

共通テキスト作成

境を越えて
SAKAI WO KOETE

2022年度モデルカリキュラム実施箇所と今後のスケジュール

	2022.4月	2022.5月	2022.6月	2022.7月	2022.8月	2022.9月	2022.10月	2022.11月	2022.12月	2023年1月	2023年2月	2023年3月
テキスト	テキスト作成			テキスト内容検討			テキスト教則本作成			テキスト外部評価		
波及の取り組み	見学・体験受け入れ当事者説明						新規大学・連携協力組織へのプロジェクト説明					
モデル授業	① 帝京平成大学 ② 日本医療大学 ③ 東北文化学園大学 ④ 東橘中学校 ⑤ 長狭認定こども園					短期授業実施3校予定			短期授業実施2校予定			

① 帝京平成大学（東京）

時期：2022. 8.11 - 15

対象：看護学部 1年生

人数：20名 当事者協力10名

② 日本医療大学（札幌）

時期：2022. 9.7 - 11

対象：理学療法学科 1年生

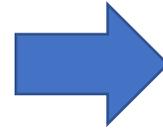
人数：**38名** 当事者協力16名

③ 東北文化学園大学（宮城）

時期：

対象：看護・理学療法・言語聴覚1～3年生

人数：14名 当事者協力6名



義務教育課程への波及を目指したモデル授業の実施

④ 東橘中学校

時期：2022.10 - 11（4講義）

内容：インクルーシブ運動会

⑤ 長狭認定こども園

時期：2022.12.23

内容：いろいろな人がいることを知る

2023年9月 杏林大学医学部 3年生必修科目 対象120名への実施予定（全学大学予算）



SAKAI WO KOETE

境を越えて

ご清聴、ありがとうございました。

